

本を選ぶ

NO.482 2025年(令和7年)7月20日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

<https://www.las2005.com>

本社 〒114-0002 東京都北区王子 4-23-4 TEL=03-6908-4643

●<ろん・ぼわん>岐路とY字路 再

●選書の法則：S. R. ランガナタンからの
187のメッセージ(30)



岐路とY字路 再

新聞や雑誌などの誌名の題字は、英語ではmasthead(檣頭^{しょうとう}=船の帆柱の先)あるいはflaglineと言うそうだ。なるほど横書きの題字ははためくようにも見える。船のマストの先端につながるロープの先の旗幟、あるいはゆわいつけられた小旗が風を受けてそよ様が見えるようだ。一方で朝刊の縦書きの題字は逆にデンと居座って動きは感じられない。

新聞配達店からの土曜夕刊休止のお知らせには、「紙面ビューアー」なら無料で利用できますよ、とある。電子版ではなく、PCやスマートフォンで印刷版のイメージのまま紙面が読めるというおすすめだ。おそらく電子版を敬遠気味の年配購読者を取り込み、少しでも電子版購読につなげたいという思惑があるのだろう。新聞購読者数が激減したあおりで、新聞配達店の倒産・廃業傾向はさらに進み、電子版だけになったら彼らの暮らしはどうなるのか。

先日、旅先のホテルで新聞を頼もうかと思っていたら、電子版の案内が置いてあった。早速QRコードを読み込むと、日経電子版のサイトにするとつながった。ここではもはや紙印刷版の新聞は不要なのだ。

さて、朝日新聞に追随するかのよう毎日新聞、産経新聞、東京新聞(段階的に)が8月以降の土曜夕刊の発行休止を決定、紙印刷新聞発行縮小化の流れは加速しつつある。読売新聞だけが朝夕刊発行の継続について従来の姿勢を崩していないが、どこまで持ちこたえられるか。

新聞の紙版発行は大型の輪転機でしか実現できない。この輪転印刷機メーカーですら開発・製造にピリオドを打つ姿勢を明らかにしているとの情報もある。メーカーは、新聞業界というクライアントに先回りするかのよう先行きを見越しているのだ。つまりは紙版の新聞がいずれ姿を消すだろうという事態は現時点でもかなり確実性を増していると言える。

新聞業界に見られる保守性は今に見えたわけではないようだ。前号でふれたように戦後の技術革新を取り入れた新聞社の経営改革は50年以上前の昭和40年代以前まで遡る。規模や資金力に勝る三大紙を中心に進むはずの改革は、民間他業種が取り組んだ業務のコンピュータ化についてはどうだっただろう。三大新聞社は、コンピュータの導入に関しては意外にも動きが鈍かったと言わざるを得ない。時代の風をいち早くとらえて革新の道を模索するはずの新聞各紙の対応が後手に回ったのは何故だったのか。日々の滞りない新聞発行と他社に先駆けるスクープをものにするという使命が事業体の経営改善の上に覆い被さる気風となっていたのか。(『メディアの興亡』(杉山隆男 著／四六判上製／文藝春秋／1986年) (埜村太郎)

選書の法則：

S.R.ランガナタンからの187のメッセージ (30)

吉植 庄栄

30. 五つの法則の内戦・中（承前）

『図書館選書論第2版』の内容を、ランガナタンがよく使った架空の対談方式で紹介している。今回も前回から続く法則達の内輪もめについて。五つの法則の主張のそれぞれが他の法則の主張とぶつかり、その解決法を考えるとところが見どころ！

【登場人物】

○ランガナタン：図書館界のビッグスター、S.R. ランガナタン (1892-1972) 先生。内輪もめの仲裁役を担当中。

○第一法則くん～第五法則くん：ランガナタンの著作『図書館学の五法則』に出てくる各法則。全員集合して、各々の主張の妥協点の検証中！

○第二・第四・第五軍団：ランガナタン先生が紛争解決のために呼び寄せた刺客たち。各法則の争いに介入して、和解を目指します！

ランガナタン（以下「ラ」）：前回から第一法則くんから第五法則くんまでの主張の対立に対し、共通の敵を差し向けることで和解を促している。

第一法則くん（以下「一」）：第一軍団「図書館の収容量と職員の処理能力」くんの攻撃で、第二法則くんと戦いは和解となりました。

第二法則くん（以下「二」）：図書館が収容できる本の量と職員の処理できる限界を超えた受入冊数で攻められると、現実的な必要から我々の主張も妥協せねばなりません。

ラ：うむ。目論見通り、思う壺であった。

二：第二軍団「図書館の予算」くんの攻撃もきつかったですね。

第三法則くん（以下「三」）：予算の上限が足かせとなり、「すべての人」に寄り添う選書の仕事には、限界がありますよね。

ラ：そうだな。将来の利用者にも寄り添う選書……というのが理想だけど、予算に限りがあるのではな。

三：となると私の「すべての資料」に利用者を繋ぐという観点から「今、目の前に居る利用者が手に取る図書を選書しよう！」の主張の方に軍配が上がりますよね。

ラ：そうだ。これも目論見通り。

第五法則くん（以下「五」）：ですが成長し続ける図書

館という私の主張からは、結構悲しいです。

ラ：うむ。だが残念ながらこの予算はとてもシビアなのだ。図書館運営のあらゆる面に影響がある。この第二軍団くんは今回も別の軍団と連合して攻めてくるぞ。三：次に第三軍団「資料管理の工夫」くんが攻めてきました。

第四法則くん（以下「四」）：第三法則の兄貴との言い合いを見事に丸く収めちゃった。て一した野郎だ、あっぱれだぜ！

ラ：そうだったな。作家さんの権利にも関わるこのデリケートな問題に対して、見事な解決案だ。

三：多くの人が読みたがるベストセラーの貸出期間を人気のある間は、一夜貸しのような短期間にすること。そのようにすれば、多くの希望者に早く順番が回るという和解案には、本当に脱帽でした！

ラ：具体的に有効な解決法を提示されて君らも納得であったろう。

○第四の刺客「図書館の組織化」軍団

ラ：では今回も続きをやって行こう。最初は第四軍団「図書館の組織化」くんだ。第四軍団くんの攻撃には、第二軍団「図書館の予算」くんも加勢して大攻勢をかけてきているぞ。

第四軍：全法則に向けて「重複本の無駄砲」を発射しちゃいますっ！

第二軍：引き続きわが軍団は各法則をびっちり包囲して兵糧攻めを続行、予算をさらにカットしてしまえ！！

一：うわわわわ……。利用される本をたくさん選書したいけど、一層予算制限の包囲網が厳しくなっているぞ!?

二：利用者さんに寄り添った本を丁寧に選んでいるのに、なんでこんなに厳しく圧迫されるんだ??

四：欲しそうな本をできるだけ多く並べておきやー、利用者さんもぱっと見つけて、さーっと借りれるだろ!?!?こんなに包囲が厳しくて絞られちゃえば、鼻血も出ねーよ。おうおう、師匠! こんな扱いはひどいったらありやしねーぜ。なんとか包囲を緩めるように、こい

つらへ言ってやってくれねーすか!?

ラ: いや、ダメだ。むしろ攻勢を強めてくれ。大体、法則たちの言い分をすべて叶えると、お金がいくらあっても足りない。そのためやはり工夫が必要であるし、各法則くん達も少し言い分を押さねばならないのだ。第四軍: はい!! では和解答を提示してもよろしいでしょうかね??

ラ: うむ。よろしく頼む。

第四軍: はい、皆さん! 私から「図書館の組織化」という和解答を提示しちゃいます!! それぞれの図書館が単独で運営するのをもう止めましょう!! いや、止めるんです!!?

三: うーん、絶叫系の裏声がなんか印象に残りますね。

四: なんか癖強い野郎だなあ。

五: その案というのはもしかして!? 数ある図書館が協力して運営し資料を共同運用するということですか!?

第四軍: はい!! その通りなんです!! 市区町村や都道府県といった単位で、資料の共同収集をしましょう!! いや!! するんです!!

五: おおお! それは私の言い分でもあります!! 各図書館が同じ本を選ぶのではなく、分担してそれぞれ別分野を収集するのですよ。

第四軍: おっ!?! あなたっ、いいですね!! 重複本は無駄なんで、やめるんです!! 以下は仙台市の事例です!

仙台市図書館資料取扱要領

第5条 各図書館における資料収集の概要及び分担については、次のとおりとする。

(1) 仙台市民図書館

すべての市民を対象にした総合的サービスの拠点として、資料を網羅的に収集する。特に 基本図書・郷土資料・行政資料の充実に努める。

(2) 仙台市泉図書館・仙台市宮城野図書館・仙台市若林図書館・仙台太白図書館

主に各区の地域住民を対象にした総合的サービスの窓口として、資料を網羅的に収集する。なお、資料によっては各図書館と分担収集を図る。

(3) 仙台市榴岡図書館・仙台市広瀬図書館

小規模な分館として、一般図書・児童図書・逐次刊行物を中心に、時機を得た資料並びに貸出効率の高い資料の収集に努める。

2 分館を除く各図書館の分担収集分野については、別表のとおりとする。

なお、必要に応じて図書館間における保管転換を行うものとする。

第四軍: これを見ると、(1) に仙台市民図書館が中央館の役割、(2) に中規模館、そして (3) に小さな図書館の役割について分担収集のイメージが描かれているのです!!

四: うまく役割分担をすみわけやがって、なかなか絶妙なもんだ。

第四軍: これだけじゃありません!! 更に細かい別表というのもあります!!

仙台市図書館資料取扱要項 別表

別表 (相互連携と協働)	
図 書 館	分 担 収 集 分 野
市民図書館	郷土資料 哲学・歴史関係資料 社会科学関係資料 デジタル文庫関係資料 音楽・美術関係資料 音楽関係資料 東日本大震災関連資料
泉図書館	児童書研究資料 自然科学関係資料 経済文学関係資料 デジタル文庫関係資料 福祉関係資料
宮城野図書館	文学関係資料 (文学賞受賞作品・文学全集を含む)
若林図書館	音楽・美術関係資料
太白図書館	音楽・美術関係資料

ラ: 各館の役割が明確に示されているな。これで複数の図書館が同じ本をそれぞれ重複して選書せず、予算の節約が実現できている。

五: 第四軍団くんとは仲良くやれそうです。図書館の数が成長していけばいくほど、図書館間協力のネットワークも成長していかなければなりません。そして大きな目で見ると、とても巨大な1つの図書館に見なせます!! 二: でも、具体的にはどんなネットワークを構築するんだい?

五: つまり利用者さんが欲しい本は、所蔵している図書館から最寄りの図書館に配送して貸してもらうようにするんです。

三: そのためには、広域で資料を探せてオーダーできる蔵書検索システムと物流配送の仕組みとが大事ですよ。

四: えー!? でも頼んだら瞬間で本がやってくるって一寸法ちゃんなんだよな!?! なんだか待っているうちに、こちとら腐っちゃうや。時間の節約にならねーっての! 第四軍: あなたっ! 私言いましたよね!! これは、予算が無い中の次善策なんですよ! 一体何を聴いていたんですかね!!?

四: (声、甲高いな、ちきしょうめ。) うーん、まあ仕方ねーか。なんかせちがれいな。

ラ: 第四法則くんの主張はもっともだ。しかし、1つ1つの図書館が単館ですべての利用者さんの求める本を選書するのは、一番は予算の面で現実的では無いのだよ。分かってくれ。

四: あい (小声)。

二: ところで先生、協力レベルにはどのような段階がありますか?

ラ: よくぞ聞いてくれた。まずは地域だな。ある市区町村内や、近隣の自治体の図書館も含めて中央館が仕切って協力ネットワークを構築する。次に都道府県レベルだな。都道府県立図書館が音頭を取って、その都

道府県下の各図書館のネットワークを取りまとめる。

一：ネットワークを支える効率的なシステムの導入が重要ですよ。

ラ：うむ、そうだな。一件ごといちいち電話やFAX、メールでやり取りしているようだと言時間がかかり、それこそ第四法則くんを再度怒らせてしまう。

五：先生、そして全国、はたまた海外の図書館ともネットワークを接続していきましょうよ！

ラ：その通りだ！全国で繋がれば、さらにレアな資料も入手が可能になる。そして海外と繋がれば、より入手困難な資料を利用者さんは読むことができる。

五：筆者さんも、もう絶版のランガナタン先生の著作で、日本国内に所蔵していない本を、北米から貸してもらったことがあったそうですよ。

ラ：まさにそのようなケースだ。大学図書館は全国的な協力が非常に進んでいるのみならず、海外とのやり取りも充実しているのが特徴だ。研究を進める上で、非常に有難いインフラであるよな。

四：とはいえ、なんか釈然としねーぜ。短気なおいらは、とにかく待つのが大ききーなんです。

ラ：まあそんな第四法則くんのために、今後の展望を述べておくと、前の回でも紹介した電子資料が、今後さらに望まれるな。それも単館ごとではなく、広域での提供だ。何回も紹介するが日本の長野県みたいに。

五：今の日本の電子書籍は、長野県を除いて単館でのちまちました提供ばかりで、この図書館協力の観点からは全く不十分です。

二：それに、導入している自治体としてない自治体の格差があります。また導入している自治体でも読める件数が大きく違うので、これも大きな格差ですよ。私の長年の敵で、もう息の根を止めていると思っていた「選ばれた少数にその人の本を」くんという奴がいるのですが、こいつが最近勢いを取り戻しつつあって、憂慮しています。

ラ：そうだな。自治体が提供する充実した電子資料のコレクションの恩恵を享受できる人々は幸せだ。だが、受けられない自治体の住民は大きな格差を受けていると言えよう。これについては、引き続き改善を訴えて行きたいな。

○第五の刺客「社会的価値」軍団

一：とにかく予算由来の攻撃はまだ続き、全然決着がつかなくて厳しいね。

三：本当に。しかしそれだけ根本的な問題と言えそうです。頭が痛い。

ラ：うむ。そうだ、大体の図書館は予算が不足しているので、緊縮財政を実施せねばならない。そこでだ。

第五の刺客である「社会的価値」軍団を投入しよう。

おーい、第五軍団くん、進撃を開始してくれたまえ！！

第五軍：よし！許可が下りたので、全軍進撃！「図書館って社会に役立つんですか？砲」を準備して、敵軍を包囲！！

三：おおおっと！今度は我々の社会的な意義を問うてきていますっ！

二：そもそも、我々の社会的意義ってなんなのでしょうか？？？

ラ：そこに立ち返るのは選書にとっても大いに意義がある。さて、引き続き予算由来の第二軍団くんも連合して包囲網を狭めてきている。さて、皆の者、どうすべきかの？

一：今度は私と第五軍団くんが仲良くできそうですね！？

二：出た！?なんという理想主義者！

ラ：ほら、また喧嘩をするな。予算の縛りがきつい場合、全ての資料を選書できる訳ではないことは、もう皆の者もよく分かったろう？

二：はい、でもそうなると何を根拠に選ぶ本を絞って行くのでしょうか？

第五軍：そこで我々の攻撃です！「皆さんは何のために存在しているのでしょうか？」砲で更なる大攻勢だ！

四：わわわわわ・・・またかよー！おれっちは、とにかく利用者さんを待たせない、余計な労力をかけさせないのがモットーだから、ちとこの類の話は苦手だぜ！

一：ここはまさに私の独壇場です！図書館は社会の一部を構成する組織です！そして、その社会を良くするための一翼を担わねばなりません！

二：分かったけどでは具体的にどんな選書をするのですか？

一：やはり反社会的な内容や、偏った考えの資料、低俗な内容の本や雑誌、これらを排除して、少ない予算

で可能な限り良質な資料を選びましょう。

ラ：うむ、条件付きでその通りだ。暑い夏の畑を例に考えよう。限られた水を全部の畑にまくと、薄くしかまけない。そうすると作物は干上がってしまう。可能な限り作物が植わっているところに絞って、集中して水をやらねばならない。そうしないと不作になって飢え死にしてしまう。

第五軍団：はい、選択と集中です。

一：その作物に当たるのが、良質な資料ですね。

ラ：その通りだ。潤沢に水、つまり予算があれば、満遍なく選書して第二法則くんの願望も叶えたい。しかし現実的には優先順位をつけて選択し、そこに集中をする。その拠り所が図書館の社会的価値なのである。

二：すべての利用者さんに寄り添えないのはとても残念です。でもさっき先生は「条件付きで・・・」とおっしゃっていましたよね？

ラ：そうだな。その説明だが、2つある。1つは他のメディアで代替できるものは図書館が敢えて背負いこまないということだ。

三：それはどんなものですか？

ラ：他のメディアとは、例えばラジオ、テレビ、インターネット等だな。図書館の本質的な役割に、多くの人々に知識を広めるというものがある。しかし他のメディアが既に担っていることは、任せてしまうのだ。

三：特に図書館でなければ、できないことに特化するのはですね？

ラ：その通りだ。図書館でなければ出会えない情報、出会えない資料を提供して行くべきなのである。

四：なるほど、合点だぜ。

ラ：そして次に、レベルが低いとみなす資料も、利用者さんらに多く支持されているものは、積極的に収集していこう。

一：それはまた何故でしょうか？

ラ：それは、その人気ある資料に惹かれて図書館を来訪した結果、他の良い資料に触れるきっかけになるからじゃよ。

三：なるほどー！先生は、図書館の役割の1つに人々に本を読むきっかけを提供するというのがあると常におっしゃっていますよね。

ラ：そうだ。そのため、緊縮財政下でも図書館に人々を引き寄せるための選書は完全にやめてはいけない。

一：とても納得しました。私も理想主義ばかりではなく図書館をトータルで考えるようにします。第二法則くん、言い争ってごめん。

二：いいってことですよ。私もほっとしました。ただ「良い社会」の「良い」が独裁国家等の偏ったものになったり、「良い社会」実現のために選本が検閲志向にならないであって欲しいものです。

ラ：よく言った！さて、今回も紙幅が尽きて来たので第六の刺客「科学的手法」軍団の攻勢は次回としよう。

一同：は——い！

(よしうえ しょうえい：東北学院大学文学部)

DMかたろぐ



阿川佐和子

1760円

だいたい



しあわせ



本人のイラストつき

爆笑と涙なくして読めない 阿川佐和子の日々のエッセイ

効果抜群！アガワ流 心の湿布薬。全国主要12紙で連載された大好評エッセイ、待望の書籍化。全篇友達に語るような筆致で綴られた、元気のでるエッセイ集。

晶文社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-11
TEL 03-3518-4940 <https://www.shobunsha.co.jp/>

ESTRELA

■2025年7月号
No.376/7月10日発行
B5判 64ページ
定価1,205円(税別)

【特集】縦断調査(パネル調査)の事例紹介

- 厚生労働省で実施している縦断調査(パネル調査)について／菅沼 伸至(厚生労働省 政策統計官付 世帯統計室 縦断調査管理官)
- 日本家計パネル調査(JHPS)の概要と特性／石井 加代子(慶應義塾大学経済学部 特任准教授)
- 「子どもの生活と学び」研究プロジェクトにおける縦断調査事例／大野 志郎(東京大学社会科学研究所 特任准教授)
木村 治生(ベネッセ教育総合研究所 主席研究員)
朝永 昌孝(ベネッセ教育総合研究所 研究員)

公益財団法人 統計情報研究開発センター(Sinfonica)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル 5階
TEL：03-3234-7471 <https://www.sinfonica.or.jp/>

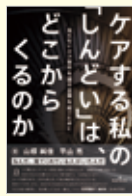
マイケル・ウォーターズ／
ニキリンコ 訳、井谷聡子 解説
**アザー・
オリンピックズ**

排除と混迷の性別確認検査導入史 隠れた意図を抉り出す。 3520円



山根純佳・平山 亮
**ケアする私の
「しんどい」は、
どこからくるのか**

見えないケア責任を語る言葉を紡ぐために 困難の核心へ。 2530円



勁草書房 TEL 03-3814-6861 ※価格税込
FAX 03-3814-6854

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 <https://www.keisoshobo.co.jp>

佐野みどり・小嶋菜温子・高橋亨 編
「幻」の源氏物語絵巻を
十七世紀、絵巻の時代と古典復興 もとめて

京都国立博物館蔵・葵六巻の全画像、そして2024年夏に石山寺で発見された空蟬残欠巻の画像とともに初公開。国内外に散らばる絵巻の画像が、この1冊に集結。

謎に満ちた豪華源氏物語絵巻の
本格研究書、ついに刊行！



A4判横綴じ函入・504頁 定価38,500円

思文閣出版

京都市東山区元町355 ※価格税込
TEL075-533-6860 FAX075-531-0009

**カップルセラピー
の教科書 上下**

三田村 仰〔著〕(臨床心理士・公認心理師)

●予価各3520円(税込)
上:978-4-535-56434-3/下:978-4-535-56448-0

カップルセラピーの実用的な知識から
歴史や研究など私的好奇心を満たすコミカルな解説
まで、すべてを詰め込んだ著者渾身の力作。

8月下旬刊

銀河天文学入門(上)

星から銀河の世界へ

※下巻:11月上旬刊行予定 9月上旬刊

リンダ・スパーク/ジョン・ギャラガー〔著〕

谷口義明〔訳〕 ●予価4400円(税込) ISBN 978-4-535-78873-2

定評の高い入門書の邦訳。上巻は、星と銀河系から銀河群までを扱う。



日本評論社 〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
☎03-3987-8621 <https://www.nipponyoko.jp>

第41回

「香・大賞」作品募集

「香り」について自由に表現したエッセイを募集します。

応募規定:800字

審査員:鷺田 清一・池坊 専好・澤西 祐典・畑 正高

賞・副賞:金賞1名 副賞30万円 他各賞あり

締切:2025年11月30日(日) 当日消印有効

発表:2026年6月下旬

応募票のご請求・お問合せは 香老舗 松栄堂「香・大賞」係まで

〒604-0857 京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL.075(212)5591

※応募票をご請求ください。入賞作品集「かおり風景」を送付いたします。

香老舗 松栄堂WEBサイトで「香・大賞」の情報をご覧いただけます。

主催:「香・大賞」実行委員会・香老舗 松栄堂
後援:日本経済新聞社 大阪本社

www.shoyeido.co.jp



お仕事マンガの経営学

鈴木竜太・北居 明・松本雄一・上野山達哉 編著

島耕作シリーズ、働きマン、夏子の酒など、サラリーマンや職業世界を描いたマンガを取り上げ、それら作品を、現実を反映した「データ」と見なして分析。日本人の働き方や、経営学における暗黙の前提などに関し、新たな知見を得ようとする実験的研究書。A5判 定価3,740円



いま、ともに考える社会学 現代社会論・入門

山田真茂留・有田 伸・中村英代 編

現代社会の様々なトピックが、社会学の理論や概念とどのように関係しているのかを、楽しく読み進めながら学べるよう工夫しました。レジュメ・レポート・卒論の書き方や質的調査・量的調査の基礎知識も解説。今までありそうでなかった充実の社会学入門。y-knot 四六判 定価1,980円



有斐閣 東京都千代田区神田神保町2-17
<https://www.yuhikaku.co.jp/>

価格は税込

おすすめの本、
歩いてお届けします

老書店員カール・コルホフのもとに
やってきた謎の少女シャジャ。
本を愛するすべての人に贈るドイツ
のベストセラー小説、待望の邦訳！

■四六判／248頁

■定価2,970円(税込)



カルステン・ヘン〔著〕

川東雅樹〔訳〕

本と歩く人



白水社

101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24
www.hakusuisha.co.jp/ tel.03-3291-7811